

防災 気象

豆知識 (6)

南海トラフ巨大地震 に備えて

「より速く、より高く」

と比べると被災地に救援物資が到着するまでにかかりの時間がかかると予想されています。そのため、家庭内における備蓄を1週間分以上確保する必要があります。と述べています。南海トラフ巨大地震に備え、計画的に少しずつ家庭内の備蓄を進めていきましょう。
※地震発生後、直ちに防災無線（Jアラート）や携帯電話（緊急速報メール）、テレビ（ケーブルテレビ）・ラジオを通じて最新の地震・津波情報が発表されます。大津波警報や津波警報が発表されたら、速やかに避難を開始してください。

問い合わせは 防災対策課（☎22-9191）へ

近い将来発生するといわれている南海トラフ巨大地震。沿岸部に位置する阿南市は、津波による浸水域も広く、大きな被害が予想されています。

津波の高さや浸水域がクローズアップされていますが、巨大な津波が押し寄せる前に巨大な地震が発生します。阿南市では過去に経験したことのない揺れ（震度6強〜7）が数分間にわたり続くといわれています。津波から命を守る避難行動をとる前に、まず地震から命を守るための準備が必要です。

住まいの耐震化

阪神・淡路大震災では、亡くなられた多くの方が、建物の倒壊などによる圧死でした。特に昭和56年5月31日以前の旧建築基準で建てられた木造住宅に大きな被害が出ました。地震で命を失わないために、建物の耐震化の備えが大切です。

家の中の安全対策

南海トラフ巨大地震に備え、寝室の布団やベッドのそば、部屋の出入口にタンスや本棚などの大型家具を置かないようにしましょう。また、家具を固定するなどの準備を進めてください。耐震化で住居が無事でも家具の下敷きや室内閉じ込め等から脱出が困難となります。

即避難と非常持出品

地震の揺れが収まったら、津波がやってきます。津波から命を守るため「即避難」より速く、より高く」を心掛けてください。日頃から非常持出品を準備しておき、すぐに避難行動に移せるよう備えが重要です。

家庭での備蓄

内閣府の最終報告では、南海トラフ巨大地震が発生すると、関東から九州までの超広範囲にわたり大きな被害が発生するため、東日本大震災

非常持出品例（1人分）

懐中電灯、携帯ラジオ、雨具、ウエットティッシュ、タオル、ゴミ用ポリ袋、小銭、マッチ、ろうそく、救急セット、飲料水、カンパン、アルファ米、メガネ、お薬手帳のコピーなど、自分に必要なもの



約1週間分の家庭での備蓄例（1人分）

- ・アルファ米 ……………11食
- ・発熱剤付き食品……………4食
- ・パンの缶詰……………3食
- ・袋入り保存パン……………2食
- ・レトルト食品……………3食
- ・飲料水 ……………21ℓ
- ・乾電池 ……………4本
- ・携帯電話充電器……………1台
- ・カセットコンロ……………1台
- ・カセットボンベ……………3本
- ・簡易トイレの袋（20枚入り）…2箱
- ・その他、自分に必要なもの

